校長研修だより２６４

私が「2026 学校説明会等」で，話していること

2026・１０・１４　重枝 一郎

私は様々な機会で，ステークホルダーに挨拶をする。もちろん，本校の教育について語る。気をつけているのは，大枠のコンセンサスを得ることと，私の人間性を感じてもらうこと，そして明るさである。だから，先生たちの再現性と一体感を，いつもお願いし，助けてもらっている。

公立学校は，誰でも安全に飲める，徹底的にろ過した水道水であり，無味無臭であることが求められる。しかし，私立学校は，個性のある天然水でなければならない。好む人には絶大に支持されるが，好まぬ人はそうはならないかもしれない。よって，私立学校は良質な天然水であることが肝要である。本校は，没個性に陥ることなく，「個性豊かな教育」を育む環境にしていかなくてはならない。これが私立学校としての矜持を保つということになる。以下，本年度は，こんな感じで話していると思う。

みなさん，「One＆Only」という言葉を聞いたことがありますか？この言葉を本年度の校長パワーフレーズにしています。

私は，本校音楽科卒業生の方と会話している時，その方が，「校長先生，ジャズの演奏が終わったとき，拍手しながら，なんて叫ぶかしっていますか？」と言われ，「知らない，何て言うの？」と返した際，その方が，「One＆Only って叫ぶんです」と。「あーなるほどジャズで，自由な演奏だから，あなたの演奏は唯一無二っていう誉め言葉にするんですね」。

私は，生徒たちは「One＆Only」であるべきだと思っています。本校にはそれにつながるシンボルワードがあります。それが「大切なひとり」です。

その「One＆Only」を育むために，学校という場所は，３つのことを意識していればいいと思っています。１つ目は「命の危機にかかわること」，２つ目は「法律に触れること」，そして３つ目は「人の成長を邪魔すること」。

人の邪魔をしないとは，孤独にがんばれではありません。

その逆で，人が集まる学校で，迷惑をかけないというのは，相手をリスペクトし，「誰とでも組める力」をつけなさいということなのです。

この力をつけるために大切なのは，相手の気持ちを推し量る「想像力」と，相手を受け入れる「共感力」です。今，企業の採用の選考基準でも，この力が最上位の観点になっています。この力がないと，世の中で活躍できないと考えられているからです。

ただ，それを言うだけでは行動が弱いままだと私は思います。なぜなら，この力を手に入れるには，自らの経験を深くすること以外ないからです。そのマインドを育てるために，生徒に２つのことを，ことあるごとに話しています。「一つは，経験をしようとすると，必ず壁に当たる。だから，壁を階段に変える力が大切になる。もう一つは，成長はたし算です。それも同質より，異質のたし算の方が大きい。受け入れる力がとても大切になる。また，応援される人はたし算されやすい。また，異質のたし算は，いじめの許容空間を作らないことにもなります。

このマインドは「情緒を磨き育てること」にもなります。「情緒」は時間をかけて育つものです。「情緒」が育っていないと，学問的知識も役に立たないと思っています。だから，草木に水をやるかの如く「情緒」を育てていきます。

これが，今の女学院のマインド（情緒）を育てる教育であり，生徒一人一人に自分の存在価値観を強く認識させたい。それにつながる本校のシンボルワードが「大切なひとり」です。